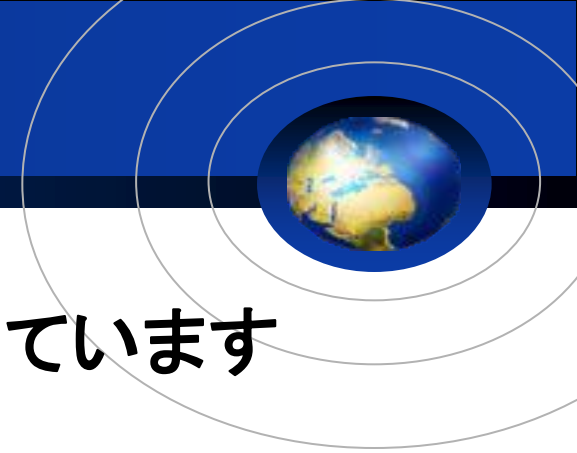


平成29年度 授業づくりに役立つ 中高保健体育研修講座

環太平洋大学 体育学部
田原陽介

体育授業と教師としての哲学



- 皆様は体育授業に関してどのような「哲学」「思い」を持っていますか？

良い体育授業とは・・・

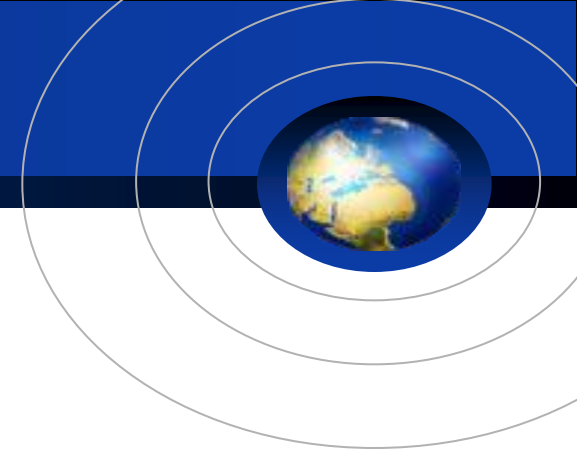
「目標が十分に達成されて、学習成果が上がっている授業」

どのような授業目標が必要か、体育とは何を教えるべきか、それはなぜか、

⇒社会をどうとらえ、これから人々や社会がどうあるべきかを考えなしに決められない。

⇒教師の「世界観」「教育観」「授業観」「信念」・・・哲学が必要

よい授業に必要なもの



■ 体育の学習内容構造

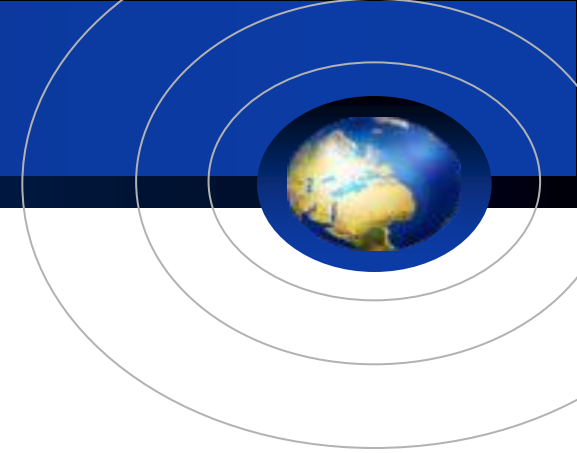
「身体能力」「態度」「知識、思考・判断」

「わかる」「できる」「かかわる」

知識・思考・
判断の学習

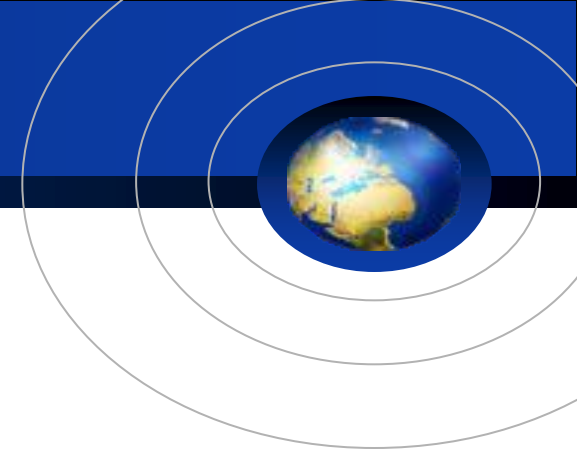
運動技術(戦術)の学習
できること(achieving)

協力的・
協働的
学習



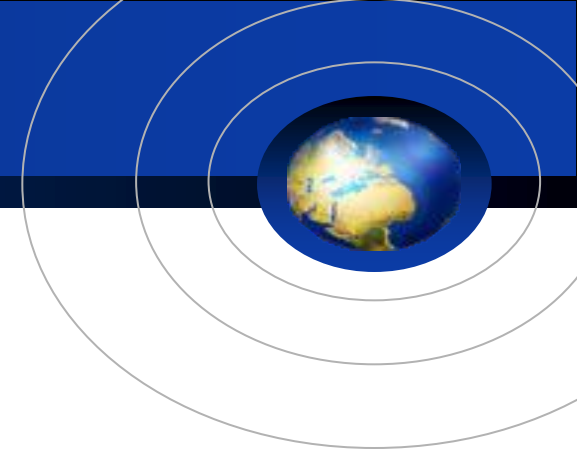
体育の多様な価値観

- ① 身体的可能性が広がる
- ② 自分自身への自信を持つ
- ③ 仲間と豊かにかかわる
- ④ 運動や運動との関わり方を学ぶ
- ⑤ 健康の維持・増進や体力の向上に寄与できる



■ 体育授業の工夫の「視点」

- ① 同じ教材でも目標の変化で授業を変える
- ② 同じ目標であっても教材は多様に準備できる
- ③ 使う用具やルール等を工夫する
- ④ 運動者の実態に合った授業づくり

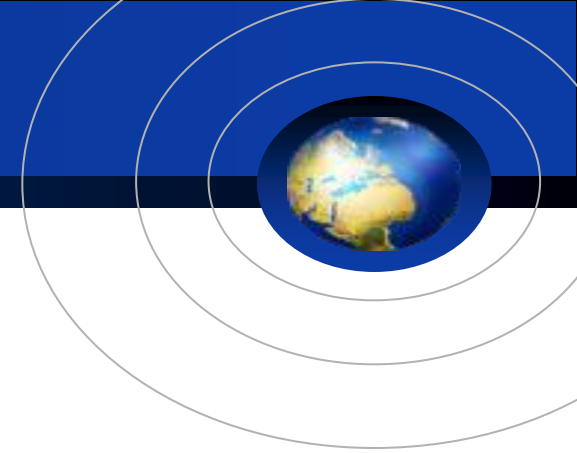


■ 協力的・協働的学習（かかわりあい・学び合い）

教師は20世紀型教員の「知識の配達人」ではなく、

- ① 能動性・自律性(主体的に学ぶ)
 - ② 協働性(仲間と対話的に学ぶ)
 - ③ 創造性(新たな世界を広げる、深く学ぶ)
- ①～③を発揮させる**授業デザイン**が求められる。

アクティブラーニング



体育における陥りがちな三つのシナリオ

① 「アクティブに(主体的に)学ぶ」体育

⇒「活動あって学習なし」の再現

もともとアクティブなため、授業改善が行われない

② 「アクティブに(能動的に)学ぶ」体育

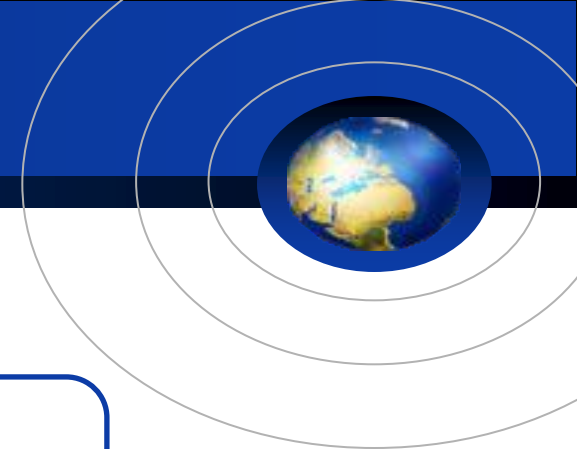
⇒「学習者の意欲喚起型の学習」の再現

行き過ぎた全体主義による授業のブラックボックス化

③ 「アクティブに(協同的に)学ぶ」体育

⇒「話し合い学習」の再現

体育を仲間づくりへと進ませる



- 体育における「対話的学び」のデザイン手順(岡野2012)

状況づくり

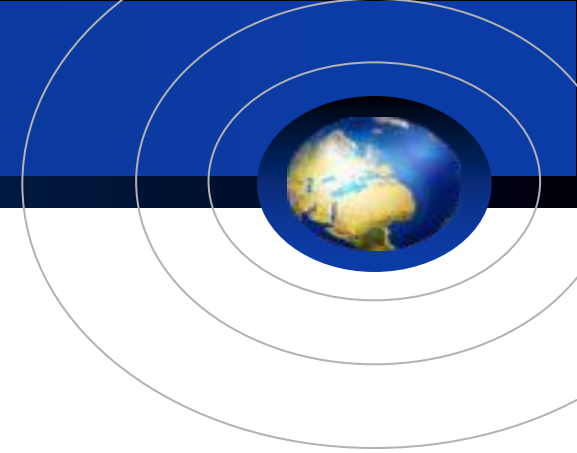
- ・「何か(概念)」
- ・「運動の中心的なおもしろさ」の設定

内容づくり

- ・「何を(目的)」
- ・「わざ(身体的技法)」の設定

課題づくり

- ・「どのように(方法)」
- ・「共有の課題」と「ジャンプの課題」の設定



■ 運動嫌い、体育嫌いはなぜおこるのか??

体育好き=運動好き? 体育嫌い=運動嫌い?

運動ができる=運動好き? 運動ができない=運動嫌い?

体育嫌い・運動嫌いだと判断する場面

なぜ体育嫌い・運動嫌いになるか、その要因



項目の中から、教員側が授業の改善等で対応しやすいものを5、対応しづらいものを1としてください。

項目の中から、生徒側の努力等で解決できそうなものを5、解決しづらいものを1としてください。